漢文入門
故事成語　―　現代語訳　―

蛇足

楚の国に司祭者がいた。あるとき司祭者はその召し使いたちに大杯に満たされた酒をふるまった。召し使いたちは相談し合って言うには、「この酒は何人もで飲めば足りないが、一人で飲むなら余るほどある。地面に蛇の絵を描いて、真っ先に描きあげた者がこの酒を飲むことにしよう。」と。その中の一人が真っ先に蛇を描きあげた。酒を引き寄せて飲もうとした。そして左手で杯を持ち、右手で蛇を描きながら言うには、「俺はこいつに足だって描けるぞ。」と。（真っ先に蛇の足を描き上げた召し使いがその足を）まだ描き終わらないうちに、もう一人が描いていた蛇が出来上がった。（真っ先に蛇の足を描き上げた召し使いが持っていた）杯を奪い取って言うには、「蛇にはもともと足なんかない。あなたはどうして蛇の足を描けるのか（いや描けるはずがない）。」と。そのままその酒を飲んでしまった。蛇の足を描こうとした者は、結局（一度手にした）酒を（とられて）失ってしまった。